

2016.8.28 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー

2016年

< 聖化の豊かさを味わう > 「聖化の説教」(22)

「詩篇の中の詩篇」

日本イエス高松新生教会・小野淳子牧師

はじめに：

詩篇は恵みが豊かで「地引網をかけると必ず多くの魚の収穫がある。」その「詩篇の中の詩篇」と呼ばれるのが23篇である。

1．恵みの盈(えい)満(まん) (1~4節)

詩篇23篇は「常時盈(えい)満(まん)」の詩

明るい日にも

- ・「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。」 良き羊飼いの絵は、ダビデが少年時代、羊をケアした体験に基づいている。羊を愛し、羊のすべての必要を知って、それに応えたダビデは、主ご自身が自分以上の良き羊飼いであったことをその人生で経験した。
- ・「主は私を緑の牧場に伏させ」 羊飼いは、おいしい牧草地を見つけ、羊をゆったりと休ませる。新約の牧草地とは教会のことである。
- ・「憩いの水の辺に伴われます。」 羊飼いは、静かな川の辺で、ゆっくりと羊に水を飲ませる。新約において、水とは聖霊ご自身である。
- ・「主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。」 羊飼いは、魂をリフレッシュし、一人一人をふさわしい道に導きなさる。

暗い日にも

- ・「たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざを恐れませんが。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。」 死の陰の谷とは比喩的に「十字架により真に罪に死ぬ経験」を指す。そこを通過することによって、聖霊を内に宿することができる。

2．恵みの氾濫(5節)

- ・「私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、」 主は、客人であるダビデをもてなすお方である。このもてなしは、ダビデが流浪していたとき、豊かな食事もってもてなしたバルジライ(2サムエル 17:28 - 29) をモデルにしていると思われる。

- ・「私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。」
ダビデは己に注がれた油注ぎの力に驚嘆した。その油注ぎは豊かな、あり余る主の恵みであった。

3．恵みの追跡（6節）

- ・「まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。」 恵みと憐みは 2 匹の牧羊犬のようにダビデを追いかけてくる。そしてその恵みは、ダビデの天国入りを保証した。